

氏名	花房 香
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6220 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	読み書き能力の発達－就学前から小学 2 年生までの追跡的研究－
論文審査委員	教授 神田秀幸 教授 野田卓男 准教授 寺田整司

学位論文内容の要旨

日本語話者の児童の読み書きの発達を明らかにするため、就学前における読字の実態を調査するとともに、その児童の小学 2 年生までの 3 年間にわたる読み書き能力の獲得状況を継時的に追跡した。これらの結果から就学前検査の有用性と早期からの学習支援の必要性について考察した。

対象は 3 年間全ての課題を施行できた児童 92 名（女 42 名、男 50 名）で、就学前は平仮名同定検査（HNT）と絵画語い発達検査（PVT-R）、小学 1 年生では平仮名読み書き計 5 課題、小学 2 年生では小学 1 年生の 5 課題に漢字読み書き課題を加えた計 7 課題を施行した。

HNT の得点と小学 1、2 年生の全課題の成績とは有意な相関を示した。HNT の中央値は 40 点満点の 38 点（5～40 点）で、69 名（75.0%）が 32 点以上であり、多くの児童は就学前に平仮名読字がほぼ可能であった。HNT が 32 点未満であると小学 1、2 年生の課題で異常値を示しやすく、HNT で異常値（18.5 点以下）を示した 6 名中 3 名は、小学 1、2 年生で 2 課題以上に異常値を示した。

就学前の HNT は就学後の読み書き能力を反映するため、スクリーニング検査として有用である。就学前で HNT が困難な場合は、就学後に発達性読み書き障害をはじめとする学習困難を生じる可能性があることを念頭に置き、早期から適切な学習支援に繋げる必要がある。

論文審査結果の要旨

就学前の言語獲得における読み書きは、その後の読み書きの発達に影響を与えることが知られている。しかし、就学前から同じ児の読み書き能力を就学後 2 年間追跡した縦断的研究はほとんど見当たらない。そこで、申請者らは、岡山市内の年長児を対象に就学前における読字の実態を調査し、同じ児の小学 1 年生および 2 年生の読字および書字能力の獲得状況を追跡することにより、就学前の平仮名同定検査が就学後の読み書き能力を推測できるのかという命題を明らかにすることを目的とし、研究を行った。

就学前平仮名同定検査の得点は、統計的有意差をもって、小学 1 年生および 2 年生の平仮名の書字、漢字の読字、書字検査の得点と正の相関、就学後の平仮名音読検査の構成要素と負の相関をもっていた。つまり、就学前の平仮名同定検査により就学後の読み書き能力に対してある程度推測できるという結論が得られた。

委員から、これまでの審査をふまえ、簡潔な論調、筋が通った論理的な文に修正されており、論点の明確化への改善が評価された。結果は就学前検査の有用性と早期からの学習支援の必要性を示唆しており、社会的意義があると考えられた。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。